

36 作品名 主

著作者 久保田一竹

作成年 2000年

初掲載書籍 『大富士山展』39番

作品画像



39. 主  
Shu

37 作品名 燦

著作者 久保田一竹

作成年 1986年

初掲載書籍 『久保田一竹作品集 1996』 10番

作品画像



10. 燦 赫い陽  
San Burning Sun

38 作品名 葵

著作者 久保田一竹

作成年 1983年

初掲載書籍 『ITCHIKU KUBOTA』（英語版）43番

作品画像



39 作品名 霧Ⅱ

著作者 久保田一竹

作成年 1984年

初掲載書籍 『大富士山展』14番

作品画像



14. 霧 朝霧たちこめる杉山  
Mu Cedar Forest Wrapped In A Morning Mist

40 作品名 天祥  
著作者 一竹工房  
作成年 2004年  
初掲載書籍 なし  
作品画像



4 1 作品名 簾

著作者 久保田一竹

作成年 2001年

初掲載書籍 なし

作品画像



4 2 作品名 能

著作者 久保田一竹

作成年 1976年

初掲載書籍 『大富士山展』 17番

作品画像



17. 能 安土に咲き乱れる藤に思いを馳せて  
Noh Thinking About Wisteria Flowers Blooming All Over In Azuchi

4 3 作品名 翔  
著作者 久保田一竹  
作成年 1980年頃  
初掲載書籍 なし  
作品画像



4 4 作品名 亀甲松皮

著作者 久保田一竹

作成年 1978年

初掲載書籍 なし

作品画像



4 5 作品名 華鳥

著作者 久保田一竹

作成年 1997年

初掲載書籍 『大富士山展』18番

作品画像



18. 華鳥 春うらら、水辺に遊ぶおしどりの群  
Kachou A Beautiful Spring Day: Lovebirds Playing At The Water Side

46 作品名 秀雅

著作者 久保田一竹

作成年 1998年

初掲載書籍 『大富士山展』24番

作品画像



24. 秀雅 咲き乱れる葵の群生  
Shuuga Gregarious Mallows Blooming All Over

47 作品名 流藤  
著作者 久保田一竹  
作成年 1980年頃  
初掲載書籍 なし  
作品画像



48 作品名 極光  
著作者 久保田一竹  
作成年 1986年  
初掲載書籍 なし  
作品画像



49 作品名 穩

著作者 久保田一竹

作成年 1989年

初掲載書籍『ヨーロッパ巡回展帰朝記念 一竹辻が花展』1番

作品画像



50 作品名 御

著作者 久保田一竹

作成年 1989年

初掲載書籍『ヨーロッパ巡回展帰朝記念 一竹辻が花展』2番

作品画像



2. 御(富士山) 朝日に燃え上がる赤富士  
Ohn (Mt. Fuji) The Burning Red Fuji At Dawn

5 1 作品名 恩

著作者 久保田一竹

作成年 1992年

初掲載書籍『久保田一竹作品集 1996』6番

作品画像



5 2 作品名 温

著作者 久保田一竹

作成年 1997年

初掲載書籍『大富士山展』7番

作品画像



5 3 作品名 遠

著作者 久保田一竹

作成年 2001年

初掲載書籍 なし

作品画像



5 4 作品名 蘊  
著作者 一竹工房  
作成年 2004年  
初掲載書籍 なし  
作品画像



5 5 作品名 園

著作者 久保田一竹

作成年 2000年

初掲載書籍『大富士山展』2番

作品画像



2. 園 金色に輝く八重雲にたたずむ富士  
Ohn Fuji Standing In Golden Clouds

5 6 作品名 菀

著作者 久保田一竹

作成年 1991 年

初掲載書籍『久保田一竹作品集 1996』5 番

作品画像



57 作品名 躰

著作者 久保田一竹

作成年 1994年

初掲載書籍『大富士山展』10番

作品画像



58 作品名 緇

著作者 久保田一竹

作成年 1994年

初掲載書籍『大富士山展』9番

作品画像



9. 緇 昇り龍雲たなびく富士  
Ohn Fuji And Trailing Clouds Of Rising Dragon

59 作品名 蔭

著作者 久保田一竹

作成年 1993年

初掲載書籍『大富士山展』3番

作品画像



60 作品名 井筒

著作者 久保田一竹

作成年 1985年

初掲載書籍『ヨーロッパ巡回展帰朝記念 一竹辻が花展』5番

作品画像



5. 井筒 着物の中にある着物自身  
Izutsu A Kimono Within a Kimono — Feelings Exposed

6 1 作品名 垂れ桜姫

著作者 一竹工房

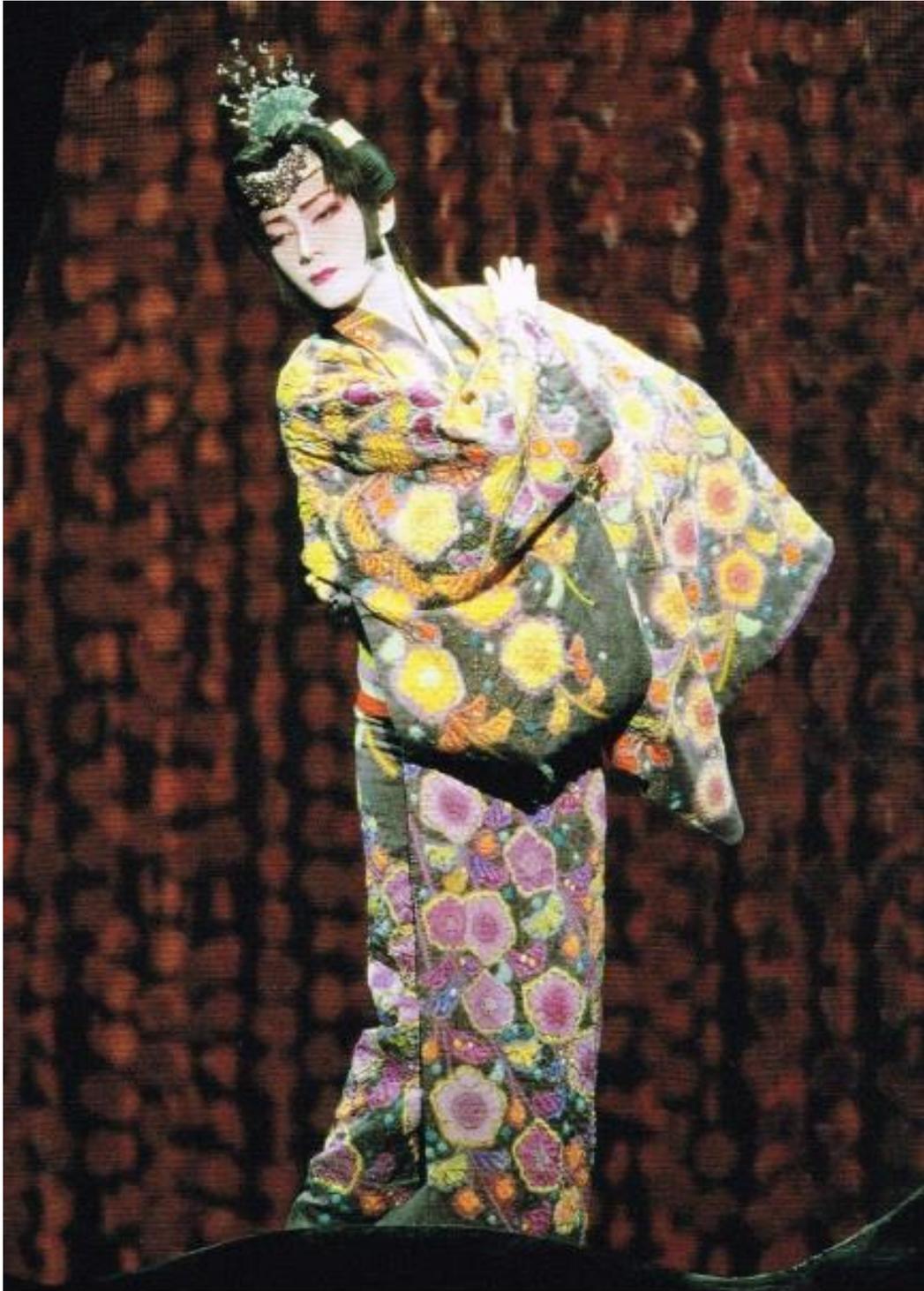
作成年 2007年

初掲載書籍 なし

作品画像



6 2 作品名 桜襲  
著作者 一竹工房  
作成年 2007年  
初掲載書籍 なし  
作品画像



6 3 作品名 秋陽

著作者 久保田一竹

作成年 1983年

初掲載書籍『大富士山展』16番

作品画像



16. 秋陽 秋に染まる真紅のもみじ  
Shuuyou Scarlet Maple Leaves In Autumn

6 4 作品名 春陽

著作者 久保田一竹

作成年 1983年

初掲載書籍『ヨーロッパ巡回展帰朝記念 一竹辻が花展』9番

作品画像



6 5 作品名 聖

著作者 久保田一竹

作成年 1981年

初掲載書籍『ヨーロッパ巡回展帰朝記念 一竹辻が花展』12番

作品画像



12. 聖 高貴なる聖者  
Hijiri Noble Saint

6 6 作品名 善朱華紋

著作者 久保田一竹

作成年 1983年

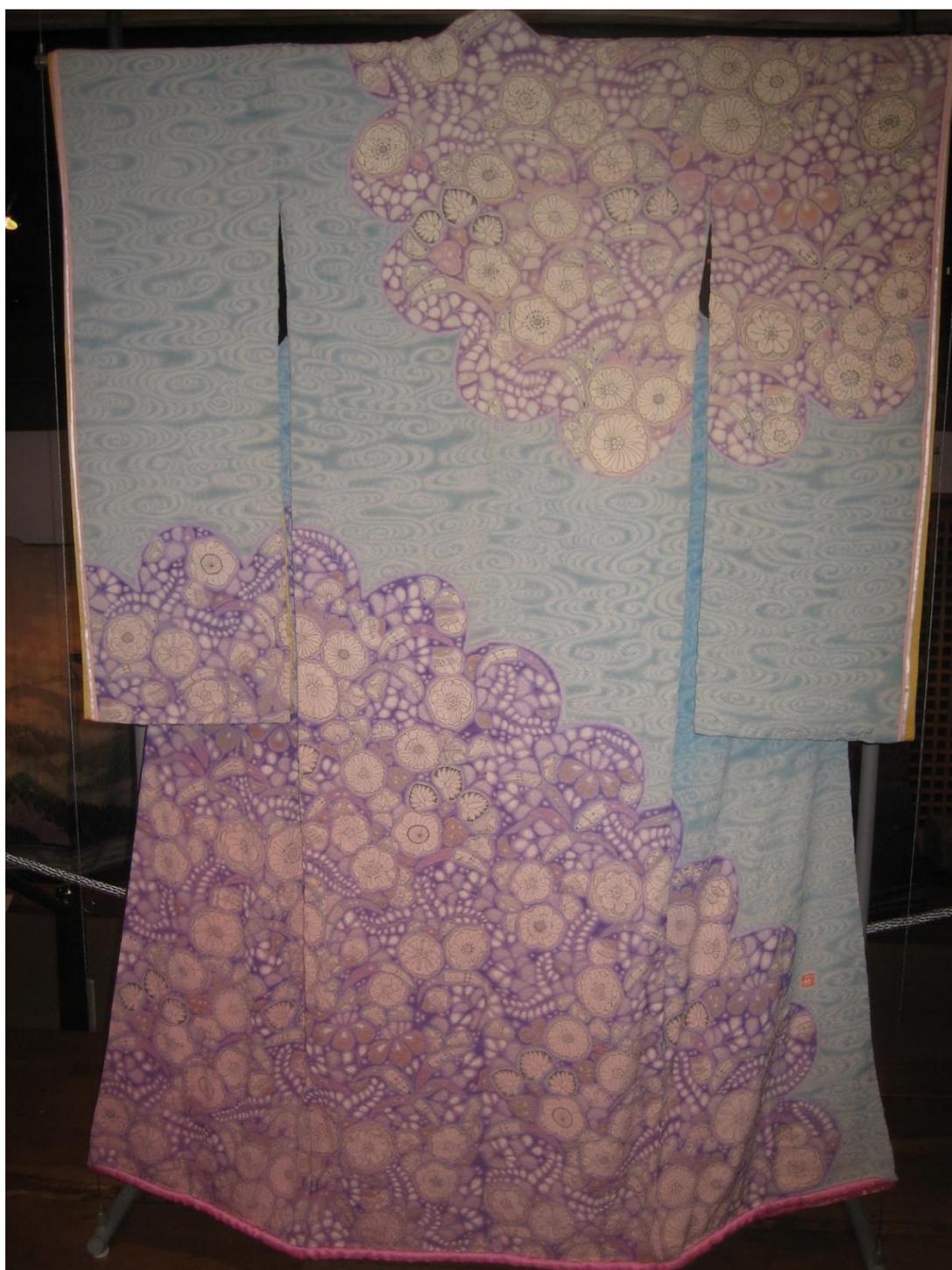
初掲載書籍『ヨーロッパ巡回展帰朝記念 一竹辻が花展』11番

作品画像



11. 善朱華紋 唐の国の美女、善妙の菩提心  
Zenshukamon An Exotic Beauty, Enlightenment of a Gentle Kind

67 作品名 余波  
著作者 久保田一竹  
作成年 1982年  
初掲載書籍  
作品画像



68 作品名 頭 (宇宙)

著作者 久保田一竹

作成年 2000年

初掲載書籍『大富士山展』38番

作品画像



38. 頭  
Zu

69 作品名 祥弧  
著作者 一竹工房  
作成年 2004年  
初掲載書籍 なし  
作品画像



70 作品名 辻紫華紋

著作者 久保田一竹

作成年 1985年

初掲載書籍『ヨーロッパ巡回展帰朝記念 一竹辻が花展』7番

作品画像



7. 辻紫華紋 菊・藤の唐花等紋様  
Tsujishikamon Exotic Florals: Chrysanthemum and Wistaria

## 制作工程文章目録

1	<p><b>一竹辻が花の技法</b></p> <p>技法は多彩であり、構想に応じてさまざまに変化する。 表現する柄や色によって全く異なることが多い。 今回は基本的なものに限って紹介する。</p>
2	<p><b>下絵</b> 白絹の記事を着物の形に仮仕立てし、その上に青花（あいばな）とよばれるつゆ草の汁で模様を筆描きする。青花を使うのは、水蒸気にあてるだけで簡単に筆の線を消すことができるためだが、実際に描き直しはほとんどない。</p>
3	<p><b>糸入れ・絞り</b> 仮仕立てを解く。下絵の描線を意図の道として添うように縫ってゆく。糸は染まりにくいビニール系。テルテル坊主を作る時のように生地をつまんで糸を3回巻きつけ、2度くくって固く引き絞る。</p>
4	<p><b>色さし</b> 小指の先ほどの大きさのテルテル坊主の頭に、丹念に刷毛で色をつけてゆく。これが最も難しい。絞り込んでいるため模様の位置関係が分かりにくく、「光響」連作のように色の錯綜する絵柄では、構図の細かい部分まで頭に入っていないとこの作業はできない。</p>
5	<p><b>防染</b> 色さししたテルテル坊主の頭にビニールをかぶせ、糸で縛る。そのまま染料に浸して生地全体を染めれば、ビニールで覆った部分だけが染まらず。色をさしたままの状態が残る。色さししないままで防染を施し、生地染めし、白く抜けた部分に色をさす場合もある。これらの技法を組み合わせ、効果を計算しながら使いこなすことによって、微妙な色彩のハーモニーが生まれる。</p>
6	<p><b>蒸す</b> 熱を加えると染料が固定される。40分から1時間半程度、水蒸気にさらす。そのための蒸し箱が工房にある。</p>
7	<p><b>水洗い</b> 絹は一度に一定量の染料しか受け付けられない。複雑な色に染めるには、そのつど不浄な染料を水で洗い流し、本来の生地に近い状態に戻してやらなければならない。このため、1回の染めにたいし、15回は冷たい流水で洗う。1枚の着物を完成するためには30回の染めが必要だから、少なくとも30の15倍、つまり400回以上も水洗いすることになるという。手書き友禅は、これほど水は使わない。さまざまな色を重ねても濁らない一竹辻が花のポイントは水洗いにある。</p>
8	<p><b>干す</b> 細かく割った長さ40cmほどの竹を伸子（しんし）という。これを横糸の向きにはさみ込んで生地を伸ばし、風通しの良い屋内に置く。生地の収縮を防ぐのが主な狙いで、水洗いのたびに繰り返す。最後に全体に糸入れをする。</p>
9	<p><b>糸切り・糸抜き</b> 小さなハサミで、糸を短く切る。両手で布の両端を持ち、斜に引く。絵柄や絞りの具合によって力の入れ加減や方向が異なる。糸を抜こうと乱暴に引くと布が裂けることもあるので、慎重に行う。刺繍、金箔や絵を描き加え、本仕立てして完成する。</p>

(別紙)

制作工程写真目録

1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.



## 旧 HP コンテンツ目録

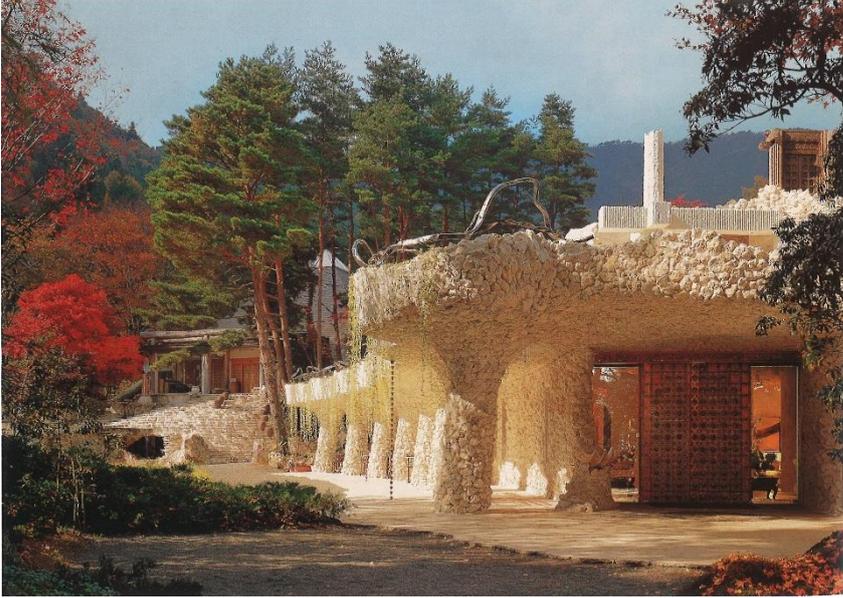
1	<p><b>辻が花染</b></p> <p>室町時代に栄えた縫締紋の紋様染で、名称の由来は定かではありません。始めは庶民の小袖から始まったと言われていますが、後に武家に愛され、高級品として一世を風靡します。しかし、江戸時代の初期にその姿を消してしまいます。幾つかの説が挙げられていますが、より自由に絵画的表現の出来る友禅の出現により、辻が花染は衰退したとされる説が有力です。</p>
2	<p><b>久保田一竹と一竹辻が花染</b></p> <p>久保田一竹は二十歳のとき、東京国立博物館で室町時代の「辻が花染め」の小裂に出会って以来、その美に魅了されて過去の模倣でなく、現代に息づく染色としての独自の『辻が花』研究に、文字通り心血を注いでまいりました。しかしながらその間、召集、敗戦、ソ連への抑留を経験。十分な研究も出来ずじまいでした。1948年、31歳で無事復員。生活のための、従来手懸けていた手描友禅で生計をたて、40歳にしてやっと本格的に『辻が花』の研究に取り組み始めました。</p> <p>しかしその後も、毎日が失敗の連続でした。赤貧の時代を経て20年間の辛酸をなめ尽くした研究の末、60歳にして初めて納得のいく作品が完成。これを「一竹辻が花」と命名いたしました。1977年、初の個展を開催。以来、国内はもとよりヨーロッパ、北米においても展覧会を開催し大好評を博してまいりました。1990年にはフランス政府より、フランスと世界に芸術的に影響を与えたということで「フランス芸術文化勲章シュヴァリエ章」を受賞。また、1993年には文化庁より文化長官賞を受賞致しました。1994年、河口湖畔に自ら「久保田一竹美術館」を建設。さらに、1995年6月より10月にかけてはカナダ・オタワ近郊のカナダ国立文化史美術館にて個展。そして1995年11月～1996年4月にかけては、現存作家の個展を過去一度も開催したことのないワシントンD.C.のアメリカ最大のスミソニアン博物館（国立自然史博物館）にて個展を長期開催。1997年には、日本全国13都市にて巡回展を開催するとともに、7月には「久保田一竹美術館」の『新館』が完成。2000年にはベルリンとウィーンにて個展を開催。その後、久保田一竹美術館での創作舞台と連作「光響」の制作に全精力を投入。2003年4月26日逝去。享年85歳。法名『華嚴院幽玄一竹大居士』。</p>
3	<p><b>フランス芸術文化勲章シュヴァリエ章勲章メッセージ</b></p> <p>久保田一竹様</p> <p>私はあなたをフランス芸術文化勲章シュヴァリエ章の叙勲者に任命する事を喜びとします。この芸術と文学に対する勲章は、フランス共和国に於ても最も重要な勲章の一つです。この勲章は、芸術または文学の創作によって著名になられた人々、またはフランスと世界に芸術的または文学的影響を与えた人々に贈られる榮譽あるも</p>

	<p>のです。 敬具</p> <p>フランス共和国文化大臣 H</p>
4	<p><b>スミソニアンよりの感謝状</b></p> <p>スミソニアン国立自然史博物館は久保田一竹氏の豊かで大らかな人間性、深い啓示を与える作品、そしてアメリカの国民と自らの芸術を分かち合いたいという氏の積極的な姿勢に対し、深い感謝の意を表します。</p>

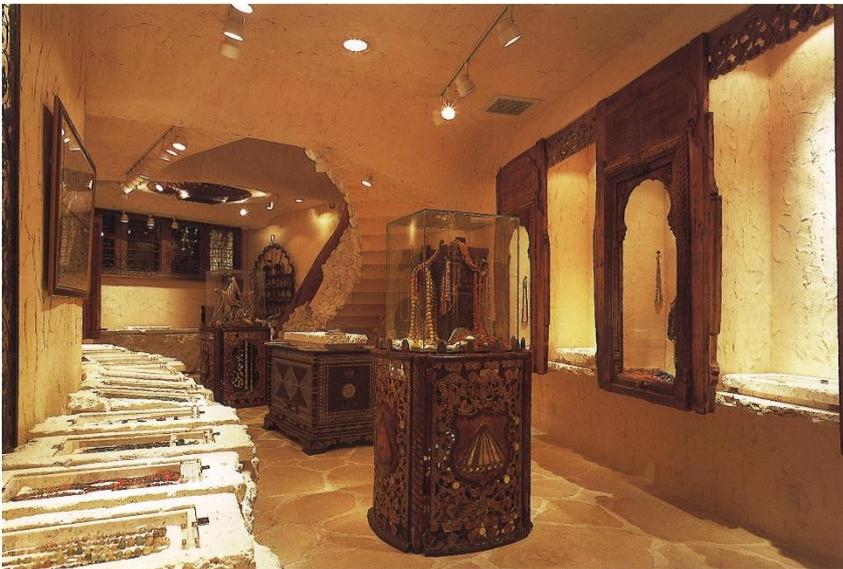
(別紙)

美術館写真目録

1.



2.



(別紙)

被告複製目録

被告制作物		複製された原告著作物		
制作物名称	掲載箇所	目録名	番号	タイトル
被告作品集	表紙	一竹作品	48	極光
	裏表紙	一竹作品	48	極光
	10 頁	一竹作品	1	猩々桃
	11 頁	一竹作品	1	猩々桃
	12 頁	一竹作品	2	瑠璃紺
	13 頁	一竹作品	2	瑠璃紺
	14 頁	一竹作品	3	香柿
	15 頁	一竹作品	3	香柿
	16 頁	一竹作品	4	弁柄
	17 頁	一竹作品	4	弁柄
	18 頁	一竹作品	5	柿紫
	19 頁	一竹作品	5	柿紫
	20 頁	一竹作品	6	序
	21 頁	一竹作品	6	序
	22 頁	一竹作品	7	梁
	23 頁	一竹作品	7	梁
	24 頁	一竹作品	8	鴻
	25 頁	一竹作品	8	鴻
	26 頁	一竹作品	9	稟
	27 頁	一竹作品	9	稟
	28 頁	一竹作品	10	蓬
	29 頁	一竹作品	10	蓬
	30 頁	一竹作品	11	交
	31 頁	一竹作品	11	交
	32 頁	一竹作品	12	霰
	33 頁	一竹作品	12	霰
	34 頁	一竹作品	13	靨
	35 頁	一竹作品	13	靨
	36 頁	一竹作品	14	霄
	37 頁	一竹作品	14	霄
	38 頁	一竹作品	15	靄

被告作品集

39 頁	一竹作品	15	靄
40 頁	一竹作品	16	渺
41 頁	一竹作品	16	渺
42 頁	一竹作品	17	茫
43 頁	一竹作品	17	茫
44 頁	一竹作品	18	蕩
45 頁	一竹作品	18	蕩
46 頁	一竹作品	19	極
47 頁	一竹作品	19	極
48 頁	一竹作品	20	陵
49 頁	一竹作品	20	陵
50 頁	一竹作品	21	超
51 頁	一竹作品	21	超
52 頁	一竹作品	22	冠
53 頁	一竹作品	22	冠
54 頁	一竹作品	23	叙
55 頁	一竹作品	23	叙
56 頁	一竹作品	24	情
57 頁	一竹作品	24	情
58 頁	一竹作品	25	嗣
59 頁	一竹作品	25	嗣
60 頁	一竹作品	26	寒
61 頁	一竹作品	26	寒
62 頁	一竹作品	27	零
63 頁	一竹作品	27	零
64 頁	一竹作品	28	優
65 頁	一竹作品	28	優
66 頁	一竹作品	29	瀑
67 頁	一竹作品	29	瀑
68 頁	一竹作品	30	宇
69 頁	一竹作品	30	宇
70 頁	工房作品	31	波
71 頁	工房作品	31	波
72 頁	工房作品	32	渦
73 頁	工房作品	32	渦

被告作品集

74 頁	一竹作品	33	炎
75 頁	一竹作品	33	炎
76 頁	一竹作品	34	宙
77 頁	一竹作品	34	宙
78 頁	一竹作品	35	頭
79 頁	一竹作品	35	頭
80 頁	一竹作品	36	主
81 頁	一竹作品	36	主
90 頁	一竹作品	37	燦
91 頁	一竹作品	37	燦
92 頁	一竹作品	38	葵
93 頁	一竹作品	38	葵
94 頁	一竹作品	39	霧Ⅱ
95 頁	一竹作品	39	霧Ⅱ
96 頁	工房作品	40	天祥
97 頁	工房作品	40	天祥
98 頁	一竹作品	41	簾
99 頁	一竹作品	41	簾
100 頁	一竹作品	42	能
101 頁	一竹作品	42	能
102 頁	一竹作品	43	翔
103 頁	一竹作品	43	翔
104 頁	一竹作品	44	亀甲松皮
105 頁	一竹作品	44	亀甲松皮
106 頁	一竹作品	45	華鳥
107 頁	一竹作品	45	華鳥
108 頁	一竹作品	46	秀雅
109 頁	一竹作品	46	秀雅
110 頁	一竹作品	47	流藤
111 頁	一竹作品	47	流藤
112 頁	一竹作品	48	極光
113 頁	一竹作品	48	極光
116 頁	一竹作品	49	穩
117 頁	一竹作品	49	穩
118 頁	一竹作品	50	御

被告作品集	119 頁	一竹作品	50	御
	120 頁	一竹作品	51	恩
	121 頁	一竹作品	51	恩
	122 頁	一竹作品	52	温
	123 頁	一竹作品	52	温
	124 頁	一竹作品	53	遠
	125 頁	一竹作品	53	遠
	126 頁	工房作品	54	瀧
	127 頁	工房作品	54	瀧
	128 頁	一竹作品	55	園
	129 頁	一竹作品	55	園
	130-131 頁	制作工程文章	1~7 および 9	
	130-131 頁	制作工程写真	1~7	
	5 頁	旧 HP コンテンツ	1~2	
	134-135 頁	美術館写真	1~2	
被告小冊子	表紙	一竹作品	56	菀
	表紙	一竹作品	57	隰
	表紙	一竹作品	55	園
	表紙	一竹作品	51	恩
	表紙	一竹作品	49	穩
	表紙	一竹作品	52	温
	表紙	一竹作品	58	縊
	表紙	一竹作品	59	蔭
	表紙	一竹作品	50	御
	2 頁	一竹作品	60	井筒
	5 頁	一竹作品	50	御
	8 頁	一竹作品	59	蔭
	19 頁	一竹作品	1	猩々桃
	19 頁	一竹作品	2	瑠璃紺
	19 頁	一竹作品	3	香柿
	19 頁	一竹作品	4	弁柄
	19 頁	一竹作品	5	柿紫
	19 頁	一竹作品	6	序
19 頁	一竹作品	7	梁	

	19 頁	一竹作品	49	穩
	20 頁	一竹作品	56	菀
	裏表紙	一竹作品	56	菀
被告カレンダー	表紙	一竹作品	56	菀
	1 月	一竹作品	37	燦
	2 月	一竹作品	50	御
	3 月	一竹作品	49	穩
	4 月	一竹作品	57	隲
	5 月	工房作品	61	垂れ桜姫
	6 月	工房作品	62	桜襲
	7 月	一竹作品	48	極光
	8 月	一竹作品	58	縊
	9 月	一竹作品	52	温
	10 月	一竹作品	51	恩
	11 月	一竹作品	63	秋陽
	12 月	一竹作品	55	園
被告絵葉書		一竹作品	28	優
被告一筆箋		一竹作品	49	穩
		一竹作品	58	隲
		一竹作品	51	恩
		一竹作品	50	御
		一竹作品	53	遠
被告クリアファイル		一竹作品	48	極光
		一竹作品	45	華鳥
被告ハンカチ		一竹作品	64	春陽
		一竹作品	65	聖
被告わさびチューブ		一竹作品	49	穩
被告石鹼		一竹作品	49	穩

被告石鹸		一竹作品	58	縹
		一竹作品	57	隰
		一竹作品	51	恩
		一竹作品	50	御
		一竹作品	59	蔭
		一竹作品	55	園
		一竹作品	56	菀
		一竹作品	52	温
		一竹作品	48	極光
		一竹作品	45	華鳥
		一竹作品	66	善朱華紋
		一竹作品	44	亀甲松川
		工房作品	62	桜襲
		工房作品	61	垂れ桜姫
		一竹作品	41	簾
		一竹作品	67	余波
	一竹作品	68	頭(宇宙)	
被告シール		工房作品	61	垂れ桜姫
被告入場券		一竹作品	45	華鳥
被告しおり		一竹作品	56	菀
		一竹作品	58	縹
		一竹作品	57	隰
		一竹作品	50	御
被告ポスター		一竹作品	58	縹
被告パンフレット	日本語版	一竹作品	45	華鳥
	フランス語版	一竹作品	45	華鳥
	英語版	一竹作品	48	極光
	中国語版	一竹作品	46	秀雅
	韓国語版	工房作品	69	祥弧
	スペイン語版	一竹作品	70	辻紫華紋

	ロシア語版	工房作品	61	垂れ桜姫
	全版共通	旧 HP コンテンツ	1~2	
被告特別割引券		一竹作品	58	緹
		一竹作品	37	燦
		旧 HP コンテンツ	2	
被告展示 案内チラシ	展示案内	一竹作品	48	極光
	展示案内	一竹作品	64	春陽
	展示案内	一竹作品	27	零
	展示案内	一竹作品	6	序
被告イベント 案内チラシ	イベント案内①	一竹作品	49	穩
	イベント案内②	一竹作品	35	頭
	イベント案内③	工房作品	61	垂れ桜姫
被告 Facebook	2015.1.11 投稿	一竹作品	64	春陽
	2015.3.26 投稿	一竹作品	35	頭
	2015.5.3 投稿	工房作品	61	垂れ桜姫
	2015.12.10 投稿	一竹作品	45	華鳥
被告 HP		旧 HP コンテンツ	1,3,4	

(別紙)

## 原被告作品対比表

### 1. 被告作品集 130-131 頁と制作工程文章の対比

被告作品集 130 頁および 131 頁	制作工程文章
技法は多彩であり、構想に応じて変化する。表現する柄や色によって全く異なることが多い。今回は基本的なものに限って紹介する。	<b>一竹辻が花の技法</b> 技法は多彩であり、構想に応じてさまざまに変化する。 表現する柄や色によって全く異なることが多い。 今回は基本的なものに限って紹介する。
<b>1 ◆下絵</b> 白絹の生地を着物の形に仮仕立てし、青花と呼ばれるつゆ草の汁で模様を筆描きする。青花は蒸気で簡単に消すことができ、染色の世界では下絵用に良く使われる染料である。	<b>下絵</b> 白絹の記事を着物の形に仮仕立てし、その上に青花(あいばな)とよばれるつゆ草の汁で模様を筆描きする。青花を使うのは、水蒸気にあてるだけで簡単に筆の線を消すことができるためだが、実際に描き直しはほとんどない。
<b>2 ◆糸入れ・絞り</b> 仮仕立てを解く。下絵の描線を糸の道として、添うように縫ってゆく。糸は染まりにくいビニール系を使用。テルテル坊主を作る時のように生地をつまんで糸を3回巻きつけ、2度くくって固く引き絞る。	<b>糸入れ・絞り</b> 仮仕立てを解く。下絵の描線を糸の道として添うように縫ってゆく。糸は染まりにくいビニール系。テルテル坊主を作る時のように生地をつまんで糸を3回巻きつけ、2度くくって固く引き絞る。
<b>3 ◆色さし</b> 小指の先ほどの大きさのテルテル坊主の頭に丹念に刷毛で色をつけてゆく。これが最も難しい。絞り込んであるため模様の位置関係が分かりにくく、連作「光響」のように色の錯綜する絵柄では、構図の細部まで頭に入っていないとこの作業はできない。	<b>色さし</b> 小指の先ほどの大きさのテルテル坊主の頭に、丹念に刷毛で色をつけてゆく。これが最も難しい。絞り込んであるため模様の位置関係が分かりにくく、「光響」連作のように色の錯綜する絵柄では、構図の細かい部分まで頭に入っていないとこの作業はできない。
<b>4 ◆防染</b> 色さししたテルテル坊主の頭にビニールをかぶせ糸で縛る。そのまま染料に浸して生地全体を染めれば、ビニールで覆った部分だけが染まらず、色をさしたままの状態でのこる。色さししないままで防染を施し、生地染めし、白く抜けた部分に色をさす場	<b>防染</b> 色さししたテルテル坊主の頭にビニールをかぶせ、糸で縛る。そのまま染料に浸して生地全体を染めれば、ビニールで覆った部分だけが染まらず。色をさしたままの状態に残る。色さししないままで防染を施し、生地染めし、白く抜けた部分に色をさす場合もある。これらの技法を組み合わせ

<p>合もある。これらの技法を組み合わせ、効果を計算しながら使いこなすことによって微妙な色彩のハーモニーが生まれる。</p>	<p>せ、効果を計算しながら使いこなすことによって、微妙な色彩のハーモニーが生まれる。</p>
<p><b>5◆蒸し</b> 熱を加える事によって染料が定着する。40分から1時間半程度、水蒸気にさらす。</p>	<p><b>蒸す</b> 熱を加えると染料が固定される。40分から1時間半程度、水蒸気にさらす。そのための蒸し箱が工房にある。</p>
<p><b>6◆水洗い</b> 絹は一度に一定量の染料しか受け付けない。複雑な色に染めるには、その都度不要な染料を洗い流し、本来の生地に近い状態に戻す必要がある。</p>	<p><b>水洗い</b> 絹は一度に一定量の染料しか受け付けない。複雑な色に染めるには、そのつど不浄な染料を水で洗い流し、本来の生地に近い状態に戻してやらなければならない。このため、1回の染めにたいし、15回は冷たい流水で洗う。1枚の着物を完成するためには30回の染めが必要だから、少なくとも30の15倍、つまり400回以上も水洗いすることになるという。手書き友禅は、これほど水は使わない。さまざまな色を重ねても濁らない一竹辻が花のポイントは水洗いにある。</p>
	<p><b>干す</b> 細かく割った長さ40cmほどの竹を伸子(しんし)という。これを横糸の向きにはさみ込んで生地を伸ばし、風通しの良い屋内に置く。生地の収縮を防ぐのが主な狙いで、水洗いのたびに繰り返す。最後に全体に糸入れをする。</p>
<p><b>7◆糸切り・糸ぬき</b> 小さなハサミで糸を短く切る。両手で布の両端を持ち、斜めに引く。絵柄や絞りの具合によって力の入れ加減や方向に注意を払う。糸を抜こうと乱暴に引くと布が裂けることがあるので、慎重に行う。刺繍、金箔、墨描き等を加え本仕立てして完成する。</p>	<p><b>糸切り・糸抜き</b> 小さなハサミで、糸を短く切る。両手で布の両端を持ち、斜に引く。絵柄や絞りの具合によって力の入れ加減や方向が異なる。糸を抜こうと乱暴に引くと布が裂けることもあるので、慎重に行う。刺繍、金箔や絵を描き加え、本仕立てして完成する。</p>

## 2. 被告作品集 5 頁と旧 HP コンテンツの対比表

被告作品集 5 頁	旧 HP コンテンツ
<p><b>久保田一竹と一竹辻が花、そして奇跡の館</b></p> <p>(略)</p> <p>「辻が花」とは室町時代に栄えた縫締紋の紋様染で、名前の由来は定かではありません。</p> <p>始めは庶民の小袖から始まったと言われていますが、後に武家に愛され、高級品として一世を風靡します。しかし、江戸時代の初期に忽然とその姿を消してしまいます。幾つかの説が挙げられていますが、より自由に絵画的表現の出来る友禅の出現により、辻が花染めは衰退したとされる説が有力です。</p> <p>一竹は、辻が花との初めての出会いを果して以来、過去の模倣ではなく現代に息づく染色としての独自の辻が花の制作研究に心血を注いでまいりました。招集、敗戦、シベリアでの抑留を経験し、1948年 31 歳で無事復員。</p> <p>(略)</p>	<p><b>辻が花染</b></p> <p>室町時代に栄えた縫締紋の紋様染で、名称の由来は定かではありません。始めは庶民の小袖から始まったと言われていますが、後に武家に愛され、高級品として一世を風靡します。しかし、江戸時代の初期にその姿を消してしまいます。幾つかの説が挙げられていますが、より自由に絵画的表現の出来る友禅の出現により、辻が花染は衰退したとされる説が有力です。</p> <p><b>久保田一竹と一竹辻が花染</b></p> <p>久保田一竹は二十歳のとき、東京国立博物館で室町時代の「辻が花染め」の小裂に出会って以来、その美に魅了されて過去の模倣でなく、現代に息づく染色としての独自の『辻が花』研究に、文字通り心血を注いでまいりました。しかしながらその間、召集、敗戦、ソ連への抑留を経験。十分な研究も出来ずじまいでした。1948年、31 歳で無事復員。</p> <p>(略)</p>

## 3. 被告パンフレットと旧 HP コンテンツの対比

被告パンフレット	旧 HP コンテンツ
<p><b>辻が花染め</b></p> <p>室町時代に栄えた縫締紋の紋様染で、始めは庶民の小袖から始まったと言われ、高級品として一世を風靡しました。しかし、江戸時代初期にその姿を消します。諸説ありますが、より自由に絵画的表現の出来る友</p>	<p><b>辻が花染</b></p> <p>室町時代に栄えた縫締紋の紋様染で、名称の由来は定かではありません。始めは庶民の小袖から始まったと言われていますが、後に武家に愛され、高級品として一世を風靡します。しかし、江戸時代の初期にその</p>

<p>禪が台頭し、辻が花染は衰退したという説が有力です。</p>	<p>姿を消してしまいます。幾つかの説が挙げられていますが、より自由に絵画的表現の出来る友禪の出現により、辻が花染は衰退したとされる説が有力です。</p>
<p>久保田一竹と一竹辻が花 氏は 20 歳の時、東京国立博物館で室町時代の「辻が花染め」の美に魅了され、過去の模倣ではなく現代に息づく染色としての「辻が花」の制作に心血を注ぎました。招集、敗戦、シベリアでの抑留を経験し、40 歳にしてようやく本格的に「辻が花」の研究に取り組み、辛酸を嘗め尽くした 20 年間の研究の末、60 歳で初めて納得のいく独自の作品が完成、「一竹辻が花」と命名しました。1977 年から国内外に於いて数々の古典を開催。1990 年フランス政府より「フランス芸術文化勲章シュヴァリエ章」、1993 年には文化庁より「文化庁長官賞」を受賞。その他、氏の功績は国内外を問わず高く評価されています。2003 年 4 月 26 日逝去、享年 85 歳。</p>	<p><b>久保田一竹と一竹辻が花染</b> 久保田一竹は二十歳のとき、東京国立博物館で室町時代の「辻が花染め」の小裂に出会って以来、その美に魅了されて過去の模倣でなく、現代に息づく染色としての独自の『辻が花』研究に、文字通り心血を注いでまいりました。しかしながらその間、招集、敗戦、ソ連への抑留を経験。十分な研究も出来ずじまいでした。1948 年、31 歳で無事復員。生活のための、従来手懸けていた手描友禪で生計をたて、40 歳にしてやっと本格的に『辻が花』の研究に取り組み始めました。 しかしその後も、毎日が失敗の連続でした。赤貧の時代を経て 20 年間の辛酸をなめ尽くした研究の末、60 歳にして初めて納得のいく作品が完成。これを「一竹辻が花」と命名いたしました。1977 年、初の個展を開催。以来、国内はもとよりヨーロッパ、北米においても展覧会を開催し大好評を博してまいりました。1990 年にはフランス政府より、フランスと世界に芸術的に影響を与えたということで「フランス芸術文化勲章シュヴァリエ章」を受賞。また、1993 年には文化庁より文化長官賞を受賞致しました。1994 年、河口湖畔に自ら「久保田一竹美術館」を建設。さらに、1995 年 6 月より 10 月にかけてはカナダ・オタワ近郊のカナダ国立文化史美術館にて個展。そして 1995 年 11 月～1996 年 4 月にかけては、現存作家の個展を過去一度も開催したことの無いワシントン D.C. のア</p>

	<p>メロカ最大のスミソニアン博物館（国立自然史博物館）にて個展を長期開催。1997年には、日本全国13都市にて巡回展を開催するとともに、7月には〔久保田一竹美術館〕の『新館』が完成。2000年にはベルリンとウィーンにて個展を開催。その後、久保田一竹美術館での創作舞台と連作「光響」の制作に全精力を投入。2003年4月26日逝去。享年85歳。法名『華嚴院幽玄一竹大居士』。</p>
--	--

#### 4. 被告特別割引券と旧 HP コンテンツの対比

被告特別割引券付パンフレット	旧 HP コンテンツ
<p><b>久保田一竹と一竹辻が花</b>  久保田一竹は20歳の時、室町時代の「辻が花染め」の小裂に出会って以来、独自の「辻が花」の制作研究に、心血を注いでまいりました。20年間の辛酸を嘗め尽くした研究の末、60歳にして初めて納得のいく作品が完成。これを《一竹辻が花》と命名しました。1977年に初の個展を開催。以来、日本国内、ヨーロッパ及び北米において、延べ90都市にて個展を開催し、大好評を博して参りました。</p>	<p><b>久保田一竹と一竹辻が花染</b>  久保田一竹は二十歳のとき、東京国立博物館で室町時代の「辻が花染め」の小裂に出会って以来、その美に魅了されて過去の模倣でなく、現代に息づく染色としての独自の『辻が花』研究に、文字通り心血を注いでまいりました。しかしながらその間、召集、敗戦、ソ連への抑留を経験。十分な研究も出来ずじまいでした。1948年、31歳で無事復員。生活のための、従来手懸けていた手描友禅で生計をたて、40歳にしてやっと本格的に『辻が花』の研究に取り組み始めました。  しかしその後も、毎日が失敗の連続でした。赤貧の時代を経て20年間の辛酸をなめ尽くした研究の末、60歳にして初めて納得のいく作品が完成。これを〔一竹辻が花〕と命名いたしました。1977年、初の個展を開催。以来、国内はもとよりヨーロッパ、北米においても展覧会を開催し大好評を博してまいりました。1990年にはフランス政府より、フランスと世界に芸術的に影響を与えたということで〔フランス芸</p>

	<p>術文化勲章シュヴァリエ章] を受賞。また、1993 年には文化庁より文化長官賞を受賞致しました。1994 年、河口湖畔に自ら [久保田一竹美術館] を建設。さらに、1995 年 6 月より 10 月にかけてはカナダ・オタワ近郊のカナダ国立文化史美術館にて個展。そして 1995 年 11 月～1996 年 4 月にかけては、現存作家の個展を過去一度も開催したことのないワシントン D.C. のアメリカ最大のスミソニアン博物館（国立自然史博物館）にて個展を長期開催。1997 年には、日本全国 13 都市にて巡回展を開催するとともに、7 月には [久保田一竹美術館] の『新館』が完成。2000 年にはベルリンとウィーンにて個展を開催。その後、久保田一竹美術館での創作舞台と連作「光響」の制作に全精力を投入。 2003 年 4 月 26 日逝去。享年 85 歳。法名『華嚴院幽玄一竹大居士』。</p>
--	--

## 5. 被告 HP と旧 HP コンテンツの対比

被告 HP	旧 HP コンテンツ
<p><b>一竹辻が花染め</b></p> <p>【辻が花染め】とは、室町時代に栄えた縫締絞の紋様染で、名称の由来は定かではありません。始めは庶民の小袖から始まったと言われていますが、後に武家に愛され、高級品として一世を風靡します。しかし、江戸時代の初期にその姿を消してしまいます。幾つかの説が挙げられていますが、より自由に絵画的表現の出来る友禅の出現により、辻が花染めは衰退したとされる説が有力です。</p>	<p><b>辻が花染</b></p> <p>室町時代に栄えた縫締絞の紋様染で、名称の由来は定かではありません。始めは庶民の小袖から始まったと言われていますが、後に武家に愛され、高級品として一世を風靡します。しかし、江戸時代の初期にその姿を消してしまいます。幾つかの説が挙げられていますが、より自由に絵画的表現の出来る友禅の出現により、辻が花染めは衰退したとされる説が有力です。</p>
<p><b>フランス芸術文化勲章シュヴァリエ章勲章メッセージ</b></p>	<p><b>フランス芸術文化勲章シュヴァリエ章勲章メッセージ</b></p>

<p>久保田一竹様</p> <p>私はあなたをフランス芸術文化勲章シュヴァリエ章の叙勲者に任命する事を喜びとします。この芸術と文学に対する勲章は、フランス共和国に於ても最も重要な勲章の一つです。この勲章は、芸術または文学の創作によって著名になられた人々、またはフランスと世界に芸術的または文学的影響を与えた人々に贈られる栄誉あるものです。</p> <p>敬具</p> <p>フランス共和国文化大臣 H</p>	<p>久保田一竹様</p> <p>私はあなたをフランス芸術文化勲章シュヴァリエ章の叙勲者に任命する事を喜びとします。この芸術と文学に対する勲章は、フランス共和国に於ても最も重要な勲章の一つです。この勲章は、芸術または文学の創作によって著名になられた人々、またはフランスと世界に芸術的または文学的影響を与えた人々に贈られる栄誉あるものです。</p> <p>敬具</p> <p>フランス共和国文化大臣 H</p>
<p><b>スミソニアンよりの感謝状</b></p> <p>スミソニアン国立自然史博物館は久保田一竹氏の豊かで大らかな人間性、深い啓示を与える作品、そしてアメリカの国民と自らの芸術を分かち合いたいという氏の積極的な姿勢に対し、深い感謝の意を表します。</p>	<p><b>スミソニアンよりの感謝状</b></p> <p>スミソニアン国立自然史博物館は久保田一竹氏の豊かで大らかな人間性、深い啓示を与える作品、そしてアメリカの国民と自らの芸術を分かち合いたいという氏の積極的な姿勢に対し、深い感謝の意を表します。</p>